

### 【資料3】ターム物 RFR 金利タスクフォースからの報告事項

- 株式会社 QUICK（以下、QUICK 社）では、「ターム物リスク・フリー・レート（確定値）の公表に向けたロードマップ<sup>1</sup>」に沿って、計画どおりに作業を進めており、金融監督当局との具体的な意見交換も開始している。
- 第 15 回会合以降、以下のとおり検討が進捗した。

#### ① ガバナンス体制構築

- ・ QUICK 社では、業務規程の策定をはじめとした社内体制の構築のほか、ブローカーへのガバナンス体制の構築に向けて、具体的な検討に着手。
- ・ また、特定金融指標・特定金融指標算出者として指定された場合に受けなければならない業務規程の認可に向けて、金融監督当局とも意見交換を行うなど、所要の対応を進めている。
- ・ 引き続き、上記の検討・対応を進めていくほか、外部監査委員会の設置に向けた対応や、行動規範の策定に向けたブローカー各社との調整等、関係者とも連携しつつ、頑健なガバナンス体制の構築を進めていく。

#### ② 算出方法の精緻化・透明性向上

- ・ QUICK 社では、Indicative データの利用縮小に向けたルールを定量的に検討。その結果、本年 11 月中を目途に算出方法を変更し、第 1～5 階層のデータ<sup>2</sup>が観測された場合には、Indicative データを利用しないこととした。
- ・ なお、第 1～5 階層のデータが観測されない場合には、少なくとも参考値の段階では、Indicative データの利用を継続する予定。ただし、確定値公表に向けて、OIS 市場の流動性も踏まえつつ引き続き検討していく。

- ターム物 RFR 金利タスクフォースでは、遅くとも 2021 年半ばまでを目標としている確定値の公表につき、可能な限り前倒しを目指して、QUICK 社の取り組みを引き続きサポートしていく予定。

以 上

<sup>1</sup> 第 2 回市中協議文書 図表 2－b（P. 24）を参照ください。

<sup>2</sup> ターム物リスク・フリー・レートの算出は、日本円 OIS の取引データを用いた 5 階層のウォーターフォール構造にもとづいて実施されます。具体的には、第 1 階層に実取引データ、第 2～5 階層に気配値データを設定し、より上位階層のデータを利用して指標を算出する枠組みです。詳細は、前回市中協議文書の別紙 2－c＜補足＞を参照ください。